

特定非営利活動法人 埼玉環境カウンセラー協会

Saitama Environmental Counselors Association (SECA)

協会だより 第52号



やまねのセカちゃん

発行日：2025年1月24日

発行人：会長 中村 章

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町 11-1 ヲムレ9F

さいたま市市民活動サポートセンター

電話：050-3610-1948

e-mail：sai-eca@soleil.ocn.ne.jp

ホームページ：<http://www.saieca.com/>

本号のラインアップ

会長挨拶	1
令和6年度通常総会を終えて	2
環境保全講習会	4
環境視察研修会	10
情報交差点、編集後記	13

会長挨拶

中村 章

令和7年、皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年度の当協会の活動を振り返りますと、例年以上に活発な活動が出来たと感じております。各自治体の環境審議会などに多くの会員を推薦し、活躍の場がさらに広がりました。また、初めての試みも幾つか行いました。環境保全講習会は、高校生・大学生、他の環境団体の参加協力を得て開催し、環境視察研修会は、栃木県環境カウンセラー協会のご協力を得て、宇都宮 LRT 視察研修と同協会との意見交換会を開催することができました。どちらも予想以上に多くの成果を得ることができました。

この様に各行事を進める中で、現在抱えている次のような課題の解決に向け、具体的なヒントを得ることもできました。

- ・各行事への参加者の減少傾向 → 参加したいと思う行事の企画や会員を巻き込んだ行事の推進。
- ・各行事の画一化 → 地域の企業、各種地域団体（環境に限らない）、学生等の若い方々などと連携した企画の推進。他県の環境カウンセラー協会との共催事業や情報共有。

今後においては、従来を超えた活動の必要性を強く感じました。

環境カウンセラーの方々は環境に関する各種専門のエキスパートであり、当協会以外の組織で活躍されている方も多く見られます。そうした方々のお力をさらに結集できれば、協会活動をより一層充実させることができると思います。

会員の皆様には、協会活動に関する率直な御意見をお寄せくださるようお願いいたします。そうしたご意見を踏まえ、当協会の活動をさらに充実・拡大していきたいと思っております。

皆様には本年も当協会への引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

I 令和6年度通常総会を終えて

特定非営利活動法人埼玉環境カウンセラー協会の令和6年度(2024年度)の通常総会は、令和6年5月11日(土)14時~16時30分、埼玉教育会館301会議室で開催されました。

概要は、次のとおりです。

- 1 開会(司会)星野弘志副会長
- 2 挨拶 中村 章会長
- 3 御来賓挨拶文の披露
埼玉県環境部長 石井貴司 様
(挨拶文は、下段に掲載)



4 議事

正会員数27名のうち、出席者9名 委任状14名で、総会は成立し、以下の第1~6号議案は、全て承認されました。()内は説明者

- (1) 第1号議案 令和5年度事業報告書について(角江副会長・事務局長)
- (2) 第2号議案 令和5年度活動計算書について(片倉会計担当理事)
令和5年度監査報告(内藤監事)
- (3) 第3号議案 令和6年度事業計画書(案)について(角江副会長・事務局長)
- (4) 第4号議案 令和6年度活動予算書(案)について(片倉会計担当理事)
- (5) 第5号議案 役員改選(角江副会長・事務局長)
- (6) 第6号議案 当協会の住所変更について(角江副会長・事務局長)

全ての議案が承認されました。このうち、第5号議案は、宮崎 誠氏のご逝去後、内藤定芳氏の1人体制であった監事について、新たに新井 智氏を追加選任したものであり、第6号議案は、当協会の登記簿上の住所を従来の大熊氏宅から星野氏宅に変更したものです。

5 閉会

6 情報交換会

星野氏が「マイクロプラスチック」について、情報提供を行い、それに基づいて意見交換を行ないました。

通常総会 御来賓の挨拶文

埼玉県環境部長 石井貴司 様

埼玉環境カウンセラー協会様におかれましては、長年にわたり、会員の皆様の専門的知識や豊富な経験を活かし、様々な環境保全活動を支援していただきました。

環境イベントへの参加による環境保全の普及啓発活動から、自然環境保全、環境教育人材の育成まで、幅広い分野にわたり、多大な貢献をいただいております。



中村会長をはじめ貴協会の皆様に、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

さて、県では昨年3月に生物多様性国家戦略が閣議決定されたことを踏まえ、今年3月、新たな埼玉県生物多様性保全戦略を策定しました。

本戦略において、県は、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現を目指すことを掲げました。

ネイチャーポジティブの実現をはじめ、多様な環境課題の解決のためには、市町村や企業、県民など、あらゆる主体との連携・協働のもと取組を進めていく必要があります。

貴協会の皆様の中には、県の環境アドバイザーに登録され、地域での環境保全活動や環境学習の講師等で活躍されている方も多くいらっしゃいます。御協力により大変多くの方の環境意識の高揚を図っていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

皆様におかれましては、今後とも、環境に関するスペシャリストとして、その熱意と見識を発揮し、より多くの個人や企業の方々の環境への意識を更に高めていくために、より一層の御尽力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展と御参会の皆様の御健勝を祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

令和6年5月11日

【情報交換会・資料抜粋】

情報提供 2024.5.11 埼玉環境カウンセラー協会・令和6年度総会

今日のプラスチック問題

～マイクロプラスチックを中心に～



出典: <https://www.yoshitake-p.com/media/2019/09/13/10>

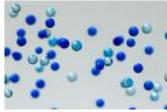
環境カウンセラー 星野弘志

マイクロプラスチックとは？

一次マイクロプラスチック
自然界に排出・拡散される前の段階で5mm以下の大きさのもの

二次マイクロプラスチック
自然界に排出・拡散された後に劣化・粉砕などで5mm以下の大きさになったもの

プラスチック廃棄物の劣化・破砕など



マイクロビーズの例
<https://sustainablejapan.jp/2016/09/19/microbead-banned-in-uk/23536>



マイクロファイバーの例
<https://news2.nhk.or.jp/news/html/20210518/1410613037271000.html>

5mm以下の大きさのプラスチック片 (一般的説明)

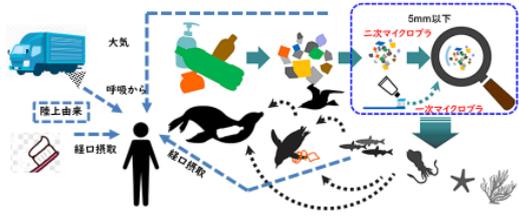
- ・洗顔料、歯磨き粉などに含まれるスクラブ剤(マイクロビーズ)
- ・洗濯機などから排出される化学繊維くず(マイクロファイバー)
- ・農業などに使われるマイクロカプセル
- ・自動車タイヤの摩耗 など

樹脂 少くも 排出 肥料

マイクロプラスチック (MP) 問題の構図

一次マイクロプラスチックや、プラスチックゴミが環境中で劣化・破砕された二次マイクロプラスチックは、海洋に蓄積される一方で、**食物連鎖**を通じて多くの生物に取り込まれている。

そして、**魚介類や大気等**を通して私たちの体内へ、さらに、**陸上由来のMPも、水や大気を通して私たちの体内へ**



出典:WWFジャパン「海洋プラスチック問題について」を一部加工 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

マイクロプラスチック (MP) の人体影響

人間は、MPを摂取している

【センセーショナルな例】
人々は飲料水や食物を通して、**毎週クレジットカード1枚分に相当する5グラム**のマイクロプラスチックを摂取している (University of Newcastle, 2019)

人体の各所からMPが発見されている

人体への有害性を示唆する調査結果が発表され始めている

ただし、人体への有害性の程度は確定していない。【調査研究段階】

不安を煽るようなタイトルや記事には要注意! By Hoshino

II 環境保全講習会

第39回 SECA 環境保全講習会は、令和6年10月19日（土）に大宮駅西口のさいたま宇宙劇場のギャラリー室・研修室で開催しました。

今回のテーマと趣旨は次のとおりです。

～ 若者と考える 今後の環境市民団体の活動 ～

気候変動や生物多様性の喪失など各種の環境問題が深刻化する一方、こうした問題に対する足元からの活動を支えてきた環境市民団体の活動はメンバーの高齢化やイベント等への若い世代の参加不足などの課題を抱えています。そこで、高校生などの若者と共に、今後の環境市民団体活動や若者の活動参画の進め方などについて考えます。

今回は、芝浦工業大学名誉教授の中口先生にご協力をいただき、インカレSDGsとの共催での開催となりました。また、埼玉県からご後援いただくとともに、NPO 法人いろいろ生きものネット埼玉、NPO 法人彩の国環境大学修了生の会にはご協賛いただき、NPO 法人エコ・エコとともに、展示出展団体としてもご参加いただきました。

【プログラム】

- 11:00 開会 【研修室】
 主催者挨拶、進行方法等の説明
- 11:10～12:00 【研修室】 基調講演
 「10年後に生き残るために環境市民団体は何をすべきか」
 芝浦工業大学名誉教授 中口毅博 氏
- 12:00～13:00 昼食休憩
- 13:00～13:05 午後の部 説明 【研修室】
- 13:05～13:55 展示ブース・セッション 【第1ギャラリー室】

参加者（若者・一般参加者）は、50分の範囲内で次の5つの展示ブース全てを回り、説明を受けたり、質疑応答を行う。

- A 展示：SECA 前田氏（鶴ヶ島での緑のカーテンなど地球温暖化防止活動など）
- B 展示：SECA 内藤氏（秩父の野生生物）
- C 展示：いろいろ生きものネット埼玉（外来生物対策、森林保全活動）
- D 展示：彩の国環境大学修了生の会（地球温暖化対策、化学物質対策、生態系保全対策）
- E 展示：エコ・エコ（見沼田んぼの環境保全活動）

- 13:55～14:05 【研修室】

SECA角江氏プレゼン（熊谷エコライフフェアでのSECAの活動と課題）

- 14:05～16:00 グループワークショップ 【研修室 及び第1ギャラリー室】

- ・展示・プレゼンで感じたこと
- ・今後の環境市民団体の活動を活発化させるための方策について
- ・若者の環境活動への参画を活発化させるための方策について

- 16:00～16:30 発表

各グループ5分程度で、話し合いの内容を報告
 中口先生の総評

本会には、学生（高校生、大学生）10人、社会人20人が参加し、午前、午後にわたるプログラムを通して、お互いに議論し、学び、交流することが出来ました。

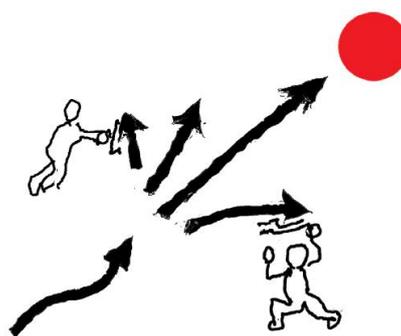
途中、中口先生から「社会人は発言せず若者に考えさせ、その意見を聞くように！」とのご指示があり、社会人の参加者たちは少し戸惑いながらも、若者から大いに刺激を受け、自分たちの今後の活動について考えるよい機会となりました。

【参加者の感想】

本会に参加し、熊谷エコライフフェアなどのイベントを通して感じている課題を発表したSECAの角江氏からは次のような感想をいただきました。

「具体的な対策が得られた訳ではありませんが、基調講演をいただいた中口先生の言葉をも借りますと、要は・・・

- 社会の心は多様であり、つれて進む
方向も流動し、多様である
- 対象者の関心を惹くには、ワクワク
ドキドキに誘う学び
- それぞれが何をすべきか考え、行動
に繋げる
- 手伝う・・・協調から同調へ
- 焦らず啓蒙
- 若手に委ねる
・・・でしょう。」



なお、本イベント終了後に、若者たちは、3つの展示者・団体を選んで交流を持ち、当該団体の他のイベントへの若者の参加や若者独自の取組に団体が支援するなどの展開に繋がっています。

また、SECAでは、本年1月に立教大学で開催されたインカレSDGsのフォーラムに参加するなど若者たちとの交流も続いており、今後も続けていくことにしています。

今回の環境保全講習会は、講習会というよりはミニフォーラムのようなイベントであり、私たちSECAにとって貴重な経験となりました。開催に当たり、ご指導・ご協力いただいた中口先生、展示の準備や出展などにご協力をいただいた3つNPO団体の皆様、そして土曜日にも関わらずお越しいただいた芝浦工業大学、筑波大付属坂戸高等学校の学生さん、生徒さんを始めとする参加者の皆様に心より感謝を申し上げます。

（編集局）

インカレSDGsプロジェクトとは

Incolle SDGs Project は、異世代・地域・学校連携型で個別最適な学びと協働的な学びを同時に実現するSDGs達成活動であり、Individual optimal and Collaborative Learning with cross-generations, regions, and schools for achieving SDGsの頭文字を取ったものです。大学間の連携（インターカレッジ）で小中高生と学びを深めるイニシアティブという意味も併せ持っています。

本プロジェクトには課題研究支援活動、合同実習・合同授業、合同実践ワークショップ、フォローアップの4種類の活動があります。

A. 課題研究支援

大学教員やキャリアコーディネータが学校を訪問したり、オンラインで面談し、課題研究、進路等のアドバイスを個別に行います。

B. 合同実習・合同授業

合同実習は、大学等が①研究室・企業見学、②体験型社会活動、③創造型社会活動の3つのタイプのプログラムを提供します。合同授業は授業を複数の学校で同時に実施し、特定のテーマについての討論や、現地活動の報告を行うものです。

C. 合同実践・合同発表

プロジェクト型探究活動実践の場として位置づけ、効果測定アンケートや意見聴取、試行実験ができる場です。探究活動の成果報告を単一の学校で行うだけでなく、合同実習・合同授業の成果発表を合同で行うこともしています。2023年度は12月16日(土)に、芝浦工業大学大宮キャンパスにて、HESDフォーラムの場を借りて、大学生約170名、高校生約30名が参加して行いました。

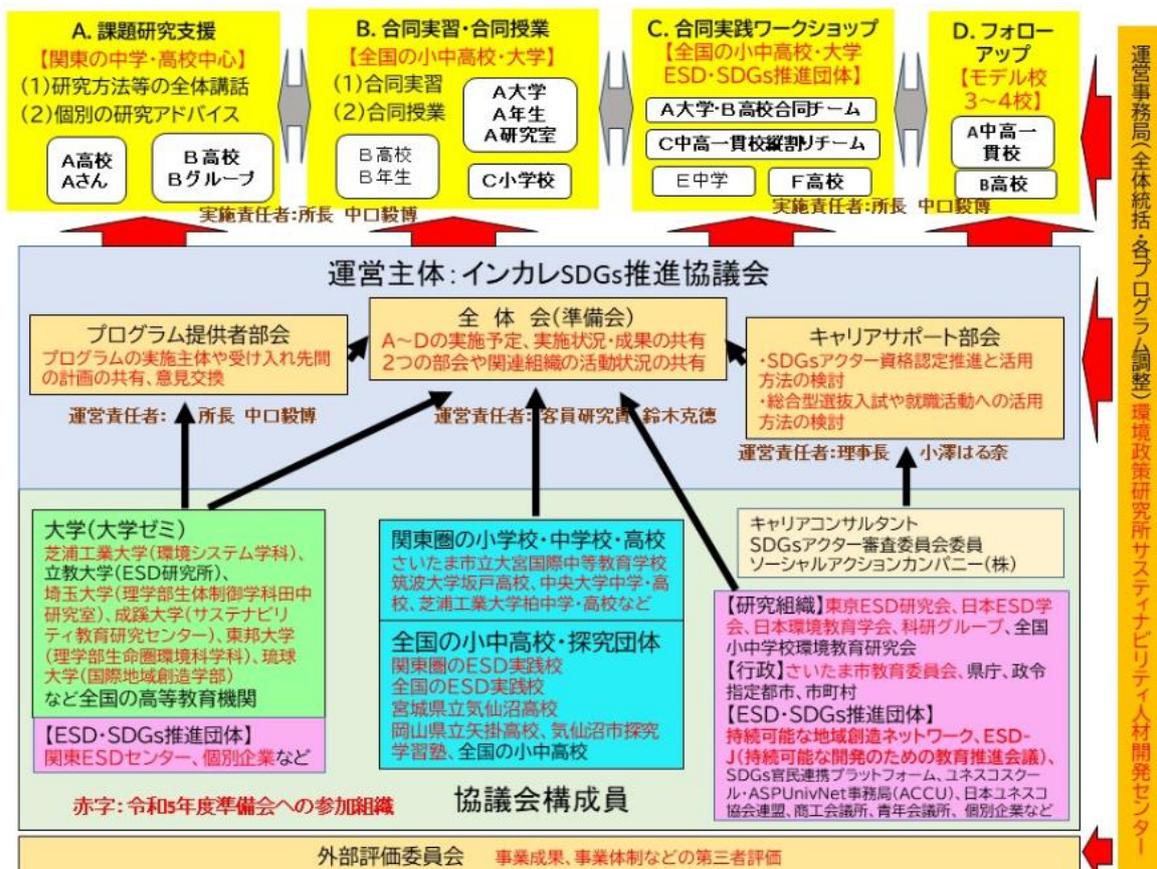
D. フォローアップ(2024年度新規事業)

SDGsアクターの資格を授与し、入試や就活の支援、学びを活かすための進路相談、入試や就活対策等のキャリアサポートをしていきます。

参加資格・実施体制

全国すべての小中高校、大学や生徒個人、教員、受け皿となる市民団体、行政や企業などESDやSDGs達成を実践している・しようとしている者が参加できます。ただし、課題研究支援は当面、関東の中高のみとさせていただきます。

2024年度中の「インカレSDGs推進協議会」の設立を目指して、現在準備会会合を開催しています。



(出典: インカレSDGsのHP <https://incollage-sdgs.site/>)

【環境保全講習会の様子】



中口先生の基調講演の様子



クラリネットを演奏する中口先生



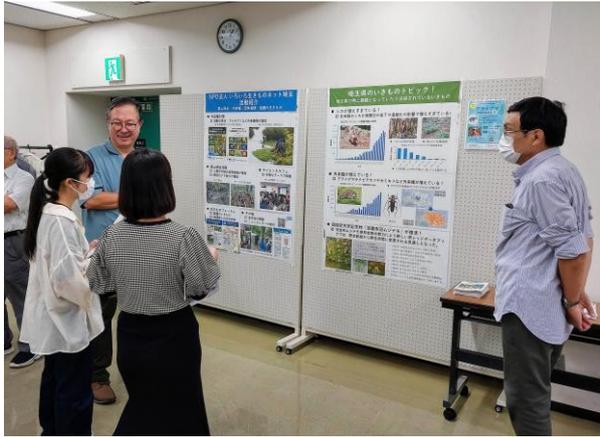
展示会場の様子



SECAの前田氏



SECAの内藤氏



いろいろ生きものネット埼玉



彩の国環境大学修了生の会



エコ・エコ



SECAの角江氏



ワークショップの様子



Ⅲ 環境視察研修会

令和6年11月20日(水)、久しぶりにSECA主催の環境視察会を開催しました。視察先は、かねてから一度は乗車してみたいと会員からの希望が高かった宇都宮市のLRTです。今回は栃木県環境カウンセラー協会(TECA)との交流の一環として、TECAの全面的なコーディネートとご案内により実現したものです。

LRTとは、Light Rail Transit(ライト・レール・トランジット)のことで、各種交通との連携や低床式車両(LRV)の活用、軌道・停留場の改良による乗降の容易性などの面で優れた特徴がある次世代型路面電車システム)です。

TECAがコーディネートしてくれた当日の行程とルートは次のとおりです。

【行程】

- ① 集合 13:00 宇都宮駅改札出て東口通路(東西自由通路)に集合
- ② LRT「宇都宮駅東口」から乗車、「平石」下車(LRT車両基地見学)
- ③ 「平石」から乗車、終点「芳賀・高根沢工業団地駅」下車し、折り返しに乗車
- ④ 「平石中央小学校前」下車、平石市民会館会議室へ徒歩移動 情報交換会 60分
- ⑤ 「平石中央小学校前」から乗車、「宇都宮駅東口」下車、解散 17:00

【ルート】全長 約 14.6km 複線 最短 42分



駅に到着するLRT



同じドアから乗り降り可能

◆車両基地での説明概要

当日は、宇都宮ライトレール㈱の職員の方から、基地に止まっている車両の中で丁寧に説明を受けました。その概要は次のとおりです。

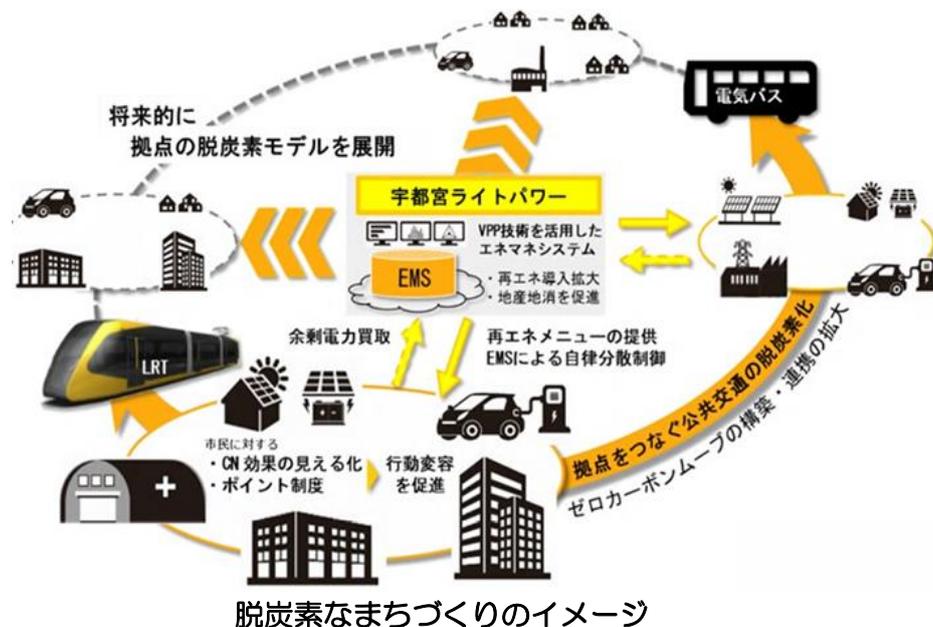


車両基地の様子



車内での説明風景

- 構想から 30 年、2015 年 8 月に芳賀・宇都宮東部地域公共交通活性化協議会が設立されてから、8 年後の 2023 年 8 月 26 日に LRT は開業。
 - 建設工事も 2018 年度～2022 年度の 5 か年間で完了した。
 - 総事業費や 684 億円（うち約 1/2 は国庫補助金）
 - 愛称の「ライトレール」の車両のデザインも、雷の多いまち「雷都」に由来している。
 - 車両は 1 編成で約 160 人、バス 3.2 台、車 107 台分に相当する輸送力を有する。朝夕のピーク時は 6 分間隔で運行し、工業団地周辺の通勤時の渋滞緩和に大きな効果。
 - IC カードを活用して、同じドアから乗り降りが可能であり、乗降車の時間を短縮。ただし、現金投入の降車口もある。
 - 開業 1 年で、乗客数は累計で 400 万人超と想定を超える好調ぶりで、沿線の街づくりに様々な効果をもたらしている。
 - 宇都宮市の人口は、平成 29 年の約 52 万人をピークに減少が続くが、LRT 沿線でみれば、開業前からマンション建設が相次いだことなどを背景に 12 年前と比べて約 8%（約 5000 人）増加。芳賀町でも人口の増加効果が現れている。
 - 地価も押し上げており、公示地価は沿線では前年比で商業地が約 6%上昇で、住宅地が約 11%上昇。住宅地の上昇率上位 3 位を LRT 沿線が占めた。
 - LRT が開業したのを受け、地元のバス会社は LRT と重複する路線を廃止し、周辺地域を巡回する路線を新設するなど大胆な路線再編に踏み切った。カーボンニュートラルと高齢化社会に向けた「車なしで自由に移動できるネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」の実現に向けて、鉄道とバスが共存の道を探りだした。
- また、一部の駅ではパーク・アンド・ライドも実施している。
- 事業スキームは、車両や軌道等の施設を行政（宇都宮市・芳賀町）が整備・保有し、民間事業者（宇都宮ライトレール㈱）がそれを借り受けて運行を行う「公設上下分離方式」。
 - ゼロカーボン輸送を実現：ごみ焼却施設や家庭用太陽光発電など地域由来の再生可能エネルギーを電源とする宇都宮ライトパワー㈱の電気を 100%使用。
 - 今後は JR 宇都宮線・東北新幹線を横断して駅西口へ延伸を計画。まずは 2030 年代前半の開業を目指して約 5km を整備し、さらに大谷観光地付近までの 3km の延伸も目指す。



◆TECA との意見交換会

今回の行程では、途中 40 分ほど TECA との意見交換会を開いていただき、現在の活動状況や課題について率直に話し合うことができました。

TECA は、行政が国の交付金を活用して実施している「田んぼまわりの生きもの調査」を受託して実施しているほか、大手企業の工場緑化に協力し、ビオトープづくりや生きもの調査などを行いながら生物多様性の保全に取り組んでいるとのことでした。

一方、私たち SECA は、環境フェアへの出展や審議会委員の就任など自治体との連携を進めている点などでお互いの活動に違いがあることがわかりました。

また、課題としては、新規の会員の確保が難しいことや会員の高齢化などは共通であり、今後、こうした課題を解決していくためにも、他県の協会との情報交換や連携の必要性を共有化することができました。



意見交換会の様子



車両基地での記念撮影

◆おわりに

今回、齋藤理事長をはじめ TECA の皆様には本当にお世話になりました。お陰様で LRT の開業により未来に向け大きく変貌しつつある宇都宮の街づくりを実感することができました。今後も交流を通して環境カウンセラーの地域貢献がより充実化できればと思います。

(編集局)

IV 情報交差点

1 くまがやエコライフフェアに参加しました

渡部良一 上田範文 佐藤隆善 角江紘一

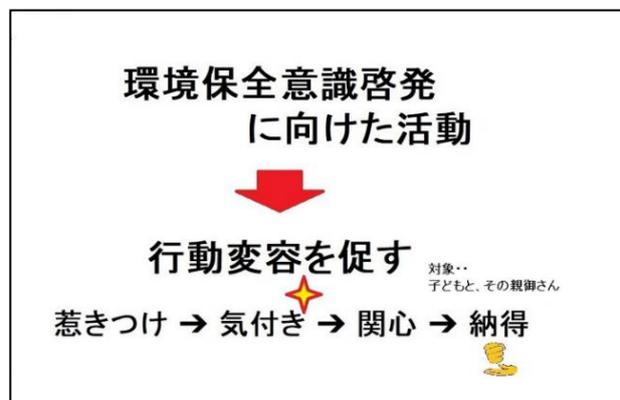
今年度のくまがやエコライフフェアは、令和6年5月18日、19日の2日間にわたり、熊谷市内で開催されました。埼玉環境カウンセラー協会は、高崎線沿いに在住する会員4名が中心となり、出展参加しました。

他の環境活動団体、市内の企業による出展もありました。休日での開催、そして、小学生による環境保全ポスターの優秀作の表彰式も併催され、多数の親子づれが来場しました。



(会場の様子)

例年、仲間同士で相談し、知恵を絞り、「惹きつけ」「気づき・関心を呼び」「納得させる」・・・いわゆる「気づきを未来へ」を方針として展開しております。



(省エネグッズへ惹かれる親子)

具体的には、

- ① 親子ともに惹きつけられる、省エネを体感して学べる実験グッズを並べた省エネ実験教室。
- ② 子供向けの風船を的にしたゴム銃、
- ③ 親御さんに向けたクイズ。先ず①②③で「惹きつけ」、「考えさせる」「手を煩わせる」。質問の仕方を工夫して、相手に答えを出させる。すぐに答えを出さず、相手が出した答えを褒めて、コメントする。
- ④ 4コマ漫画で、環境課題を分かりやすく現わし「関心を呼び」。

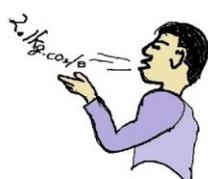
⑤ 「納得させる」ために、その詳細をしたためたお持ち帰り資料を準備しました。

ところが！！ 来場者の予想外の行動に、開催者側の私たちが気付きました。親子づれは、①子供向けの省エネ実験グッズ、②ゴム銃を終えると、④⑤肝心な環境課題納得コーナーへの関心を示さず、多くが、お隣りの展示の方に去っていくのです。アレアレ・・・

私たちの展開のしかたの拙さももちろんありましょう。市民は、「不要な灯りは消しているよ」、「空調温度は・・・」などと、既に、多くの、それなりの環境緩和策を学び、備えてもおり、馴化の傾向にあるのではないかと思えます。環境問題に対する関心度の低下が感じられます。

みなさんも取り組まれている エコライフ実践の例

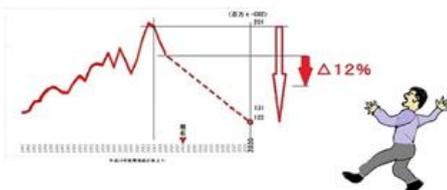
自動車	公共交通を利用
給湯 (風呂)	さめないうちに、続けて入る 残り湯を洗濯に利用する
空調	設定温度を調節する 利用時間を減らす
冷蔵庫	扉開閉を減らす 詰め込み過ぎない
照明	不要な照明は消す。 省エネ型ランプやLED照明へ
その他	



エコライフDayなどで呼びかけている、身の回りの改善も家庭単位ではささいな改善にしかありません。しかし！...



多くの家庭が、それぞれ同様のエネルギーを使ってる



日本には、**5340万世帯**があります。ささいでしかない改善も積み上げると、22.8百万t-CO2/年なんと目標**Δ40%**のうちエコライフだけで**Δ12%**ほどに相当します。加えて、太陽光発電システムの活用家屋の断熱などで、目標に挑戦！

(展示資料の一例)

多くの環境課題は、なお山積みであるところであり、私たちへの新たな課題と認識した次第です。

そして、こうしたことが、今年度の環境保全講習会のテーマを選ぶきっかけとなりました。

2 さいたま市環境フォーラムに参加しました

大熊幸雄 中村 章 片倉 寛 堀中新一 星野弘志

今年度のさいたま市環境フォーラムは、コロナ禍前と同じさいたま新都心自由通路で令和6年10月12日（土）に開催され、市内の環境団体や企業、大学、市や県など21団体が参加しました。

今年は、さいたまスーパーアリーナで比較的大きなイベントが開催されたためか、改札側の通路の幅が広く確保され、フォーラム用のスペースは少し狭い状況でした。これにより例年とは異なり、各ブースが人の流れと平行して配置されたことで、かえって人の流れを呼び込み、例年より多くの方々がブースに訪れた印象です。全体で3,100人、当協会のブースには103人が訪れ、手回し発電器によりLEDの省エネ性能を実感できる装置などを体験していただきました。途中、清水市長も各ブースに激励に訪れました。

このようなイベントでは、他の団体のブースを訪問し、情報交換など交流することも醍醐味です。そういった面でも有意義な1日となりました。



(当ブースの状況)



(さいたま市長の訪問)

3 富士見ふるさと祭りに参加しました

中村 章 大熊幸雄 星野弘志

例年参加している富士見ふるさと祭りは、今年は令和6年10月26日（土）に富士見市役所周辺で盛大開催されました。

このイベントは、従来行っていた産業祭、環境フェア、市民まつりを1つに結集して、平成17年度から開始されたものです。当協会は、文化会館である「キラリ☆ふじみ」の室内に他の環境団体など共に出展しました。

屋外には、キッチンカーや屋台も多く出店し、多くの市民で賑わっていましたが、会館内部まで来ていただける方々がそれ程多くはありませんでした。そんななか、市民団体の有志の方が廊下で親子連れを中心に呼び込みを行ってくれました。これにより、まずは当ブースで子どもたちに手回し発電器などを体験してもらい、その後、他のブースにも足を運ぶような状況が生まれ、賑わいを増しました。



4 ムジナモの野生復帰

令和7年1月7日に、県はレッドリスト植物編の13年ぶりの改訂結果を発表しました。このなかで、特に注目されたのが「ムジナモ」の野生復帰です。

これまで、ムジナモは野生では絶滅状態の種でした。ところが、地元市などによる約50年にわたる保全活動の結果、県内では初めて、国内でも極めて稀な「野生復帰」を果たし、今回「絶滅危惧ⅠA類」のカテゴリーになりました。県では、このムジナモ野生復帰はネイチャーポジティブ（自然再興）のシンボリック事例であると捉え、大野知事自らの記者会見での発表となりました。

ムジナモは、沼や水田などの水面に浮遊する全長25cmほどの植物であり、ミジンコなどの小動物を直接捕まえて栄養にする食虫植物です。日本では1890年に植物学者の牧野 富太郎より、江戸川河畔で初めて発見され、全体の形がムジナの尾っぽに似ているため「ムジナモ」と命名されました。当時、ムジナモは関東を中心とし、日本各地で生育が確認されており、埼玉県内では1921年に羽生市三田ヶ谷の宝蔵寺沼付近で初めて発見されました。しかし、その後、水環境の変化により各地のムジナモは次々と絶滅し、1966年に宝蔵寺沼が国内最後の自生地として国指定の天然記念物となり、羽生市その、羽生市ムジナモ保存会、埼玉大学が主体となり、その保護に取り組んできました。

1998年に県が初めて公表したレッドリスト植物編では「野生絶滅」の評価となり、以降その評価が継続していました。このままでは「国の天然記念物」の指定解除となりかねないと危機感を抱いた地元では、2009年から野生復帰に向けた具体的な検討を開始し、併せて、埼玉大学からの助言を受けて、放流や生育環境の整備を進めました。こうした取組により、2011年には自然増殖したムジナモ100株が確認され、さらに2016年には15万株、2021年には100万株の自然増殖が確認されました。このように安定的な生育が確認されたことから、このたび「絶滅危惧ⅠA類」のカテゴリーとなり、「野生復帰」を果たすこととなりました。

SECAでは、昨年度、「ムジナモから考える生態系保全」をテーマに、埼玉大学で中心的役割を果たされた金子康子先生や元SECA会員で羽生市ムジナモ保存会の前会長である中野忠男氏をお招きして第38回環境保全講習会を開催したところです。

その際にムジナモの保護増殖に向けて取り組まれた多くの方々のご努力を参加者の皆様と



ともに学んでこともあり、今回の野生復帰については大変うれしく感じているところです。新聞のニュースにも取り上げられ、その中のインタビューで金子先生の「まるで金メダルをいただいたようだ」というお言葉が非常に印象的でした。改めて、ムジナモの野生復帰にご尽力された関係者の皆様に心より敬意を表したいと思います。

(編集局)

第38回SECA環境保全講習会
牧野富太郎が発見した
ムジナモから考える生態系保全
日時 令和5年11月23日(木) 13:30~16:00
場所 埼玉会館4A会議室(さいたま市浦和区)・オンライン
主催 特定非営利活動法人埼玉環境カウンセラー協会(SECA)
後援 埼玉県
特定非営利活動法人いろいろ生きものネット埼玉

水生の食虫植物。ムジナモは影がムジナ(アナグマ)の尾に似ていることから、名付けられました。明治23年に植物学者の牧野富太郎が江戸川河畔で発見しました。埼玉県羽生市では、大正10年に発見され、その後、宝蔵寺沼ムジナモ自生地は国指定天然記念物となり、地元の自然団体などの保護活動により守られています。本講習会では、ムジナモを知り、それが繁殖しうる生態系とその保全の意義、さらに他の保全活動事例も取り上げて、生態系保全、生物多様性保全について考えます。

基調講演
「ムジナモの生育と水環境を考える」
埼玉大学 名誉教授 金子康子 氏
ワシントン大学でPh.Dを取得され、埼玉大学教育学部教授として活躍。植物細胞の分化過程における細胞内構造の変化と機能変化が専門。絶滅危惧水生食虫植物ムジナモの保全と水環境の評価についても精力的に研究。

活動報告
(1)宝蔵寺沼におけるムジナモの保全活動
羽生市ムジナモ保存会 元会長 中野忠男 氏
(2)オオキンケイギクの駆除を中心とした秩父の自然保護活動
SECA会員 内藤定芳 氏
このセミナーは、公益財団法人サイサン環境保全基金の助成を受けて開催します。

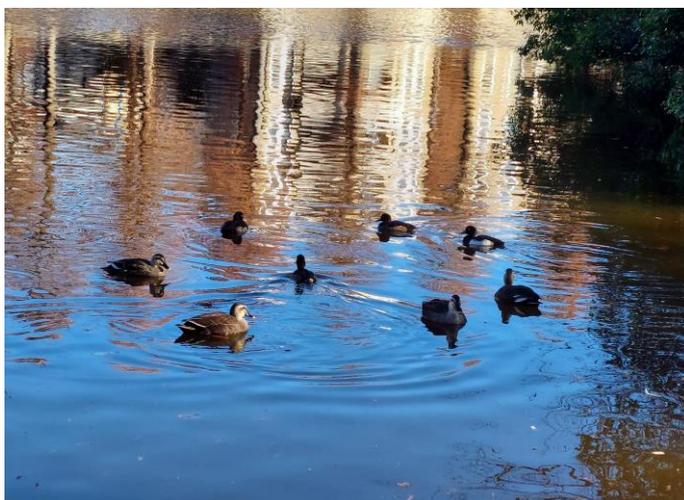
5 委員等の就任状況

SECAのメンバーの多くは、県や市町の各種審議会や委員会の委員に就任しており、委員活動を通して地域の環境行政への支援に努めています。

委員等の推薦についてご希望の自治体があれば、SECA事務局にご相談ください。

【委員等の就任の例】

環境審議会	埼玉県、行田市、八潮市、深谷市、富士見市、新座市、鶴ヶ島市、所沢市 など
都市計画審議会	深谷市
公害審査会	埼玉県
水道関連審議会	鳩山町
廃棄物関連審議会	川越市、本庄市
環境アドバイザー	埼玉県
その他専門委員会 や選考委員会等	埼玉県、さいたま市、秩父市 など



「円舞」
さいたま市別所沼
(撮影：星野)



編集後記

能登半島地震で始まった2024年は内外共に激動の1年だったと思います。戦争は一向に出口が見えないなか、地球規模の環境問題はますます深刻化し、観測史上最も暑い夏に見舞われ、サウジアラビアのメッカでは高温のため1,300人を超える巡礼の方々が亡くなるという痛ましい気象災害も発生しました。パリ協定に基づき、カーボンニュートラルという目標を掲げる国々の数は増えたものの、世界全体の温室効果ガス排出量は一向に減少しない状況に直面しています。さらに米国の新大統領の就任がこうした事態に拍車をかけるのではないかと懸念されます。

しかし、嘆いてばかりはられません。環境カウンセラー及びSECAにはThink globally Act locallyの精神に基づき、足元からの取組を着実に実行していくことが求められています。昨年、試行した若者や他団体との連携に一定の成果が見えたことから、引き続き行政と連携を図りつつ、新たなパートナーとの連携も強化しながら、各種の環境問題の理解と対策のための普及啓発に引き続き取り組んでいきたいと思っております。今後とも、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。(星野)

